

幸手小学校の歴史② ～綴方教育の伝統～

幸手小学校に残された資料の中に、「模範綴方全集」の入選を称えた表彰状があります。これは、昭和14年5月1日付で、作品を募集したのは中央公論社です。中央公論社は、社内に「綴方研究会」を立ち上げ、応募された作品の評者に島崎藤村、川端康成、森田たまがいました。幸手小学校では、この表彰状を大切に保管してきましたが、誰の、どのような作品が入賞したのか、誰が応募したのか、等々について明らかにしてきませんでした。令和になり、調査した結果、次のようなことが判明しました。

中央公論社は、現在では中央公論新社に引き継がれていますが、この「模範綴方全集」に関する資料が残されておらず、全く確認できません。中央公論新社の著作権関係を担当する方によると、当時、東宝映画で高峰三枝子主演「綴方教室」など綴方ブームがあったことくらいしかわからないそうです。

明治30年代から始まる「綴方教育」は、大正10年1月の、歴史に名高い「小倉立合講演」で東京高等師範学校附属小学校訓導の芦田恵之助と広島高等師範学校附属小学校訓導の友納友次郎の「随意選題」か「課題主義」かの『国語教育』誌上での大論争が展開されたところを頂点として、国民学校の成立まで続いた「作文教育」のことを指します。

「学制」以降の画一的な指導から、明治30年代以降に流行する「新教育」(世界的に流行した子ども中心主義の教育)は、日本では「大正自由教育」とも呼ばれました。

『幸手市史』(通史編Ⅱ近現代)では、幸手小学校の大正12年の「施設経営方針」を引用して「児童ヲ本位トシ自発的に学習セシムルヲ根本トス」という教授方針の下、自学的学習態度確立のために、学級自治会を設けて学級内の清潔整頓、団体遊戯、学校園などに関して児童に協議させたり、自習団をつくりグループで学習させる実践が行われていたことが記されています。

ここで重要なのは、昭和5年1月に着任した千野幸三郎と、昭和8年10月に着任した黒田金五郎の二人の校長です。千野は、現小川町の出身で、八和田小学校等の教員として埼玉県の綴方教育・随意選題主義をリードしたことで知られています。自宅に建設した私設千野図書館は、県内初の私立図書館です。黒田は現羽生市の出身で、現行田市の太田第一・第二小学校の校長兼訓導として随意選題主義の実践で名高く、幸手小学校の『学校沿革誌』を昭和15年に編纂したことで知られています。この二人の実践が先達の実践を引き継ぎ、昭和14年の綴方表彰につながったと言えるでしょう。

文教大学附属越谷図書館には『模範綴方全集』全6巻が収蔵されており、その第2巻に、幸手尋常小学校2年の柴崎富枝「まくにん」という作品が見事入選を果たしていました。令和6年10月の幸手市郷土資料館特別展にてこの事実が公表され、残存する表彰状の内容が明らかになりました。

以下、全文を掲載します。

幸手尋常小学校 第2学年 柴崎富枝「まくにん」

けふは、けんかうしう間三日目でまくにんをのむといふお話がありました。

てうれいがをはつてから、らうかに並びました。

「一年生からじゆんゝにのむんです。」

と先生がおつしやつたので、私たちは吉岡學級のあとへついて行きました。

やうごしつのわきでまつてみると、吉岡學級の女の子が、

「とてもにがい。」

「すつぱい。」

といひながら、へんなかほをして口をおさへて、けうしつへかへつて行きました。

男の子は、とつてもあまいんだの、うまいんだのつて、笑ひながら来たので、私はどつちだらうと思つてゐました。

今度は私たちの級です。

ゐどの所につくゑが出てゐて、ふかいおちやわんがいくつもゝならんでゐました。

かんごふさんが、やくわんからおちやみたいのをどれにもついでから、

「さあ、みんな一つづつおちやわんを取りなさい。」といひました。

みんなが、おつかなびつくりおちやわんを取つて、りやうわきに一れつに並びました。

「一、二、三で、ごくんとおのみなさい。」

と先生がおつしやつた時は、なんだか、むねがどきゝしました。

「よいい。」

で、みんなが手をのばして、おちやわんを前に出しました。

「一、二、三」

おちやわんを口の所へ持つていつたら、なんだかへんなにほいがしました。

思ひきつて、目をつぶつてごくんとのみました。

のりのやうにねばつた、にがいやうなへんなあちで、いやになつちやひました。

みんなを見ると、のんちやつておちやわんをおいてゐましたから、私ものがまんして、のこつたのをまた目をつぶつてのんちやひました。

「あゝよかつた。みんなのめて。」

といつたら、青木さんが、

「私も。」

と、にがひかほをしながらいひました。植竹さんはまつかになつてのんでゐるけれど、まだのみおはりません。

かんごふさんがあたまをおさへて、やうゝのませました。

.....
この綴方が選者に選ばれ、幸手小学校は表彰状を受けることになったのです。

(「まくにん」とは、おなかの虫をくだす薬のことです。)